

風土記の丘の花だより¹⁹⁷

今、そしてこれから見られる植物(2023年8月5日)

いよいよ8月に入りました。暑さはとどまるところを知りません。これを書いている今は「台風6号が沖縄あたりに・・・」というニュースが流れています。果たしてこれをご覧になる頃には、多少の雨は降っているのでしょうか？(楽しみでもあり、不安でもあり)



ウバユリがやっと咲きました。今年は遅いように思い、「やっと」と付けましたが、記録を見てみると、去年は8月9日に開花とありました。なんと1週間も早いことがわかりました。柳川家の裏の山裾、イヌビワの木の下に生えています。花を横向きに付ける独特の姿です。また、一般的なユリのようにパカッと開きません。開いたのか開いてないのかわからないような咲き方です。この時期、南紀の山道を走っているとたくさん見かけます。真夏を代表する大型の野草です。



そのウバユリの下にミョウガがいっぱい生えていますが、それをかき分けると花が見つかります。今年もここのミョウガは激しく踏み荒らされていますが、それでもけなげに薄黄色の花を咲かせています。思わず「よお頑張ったな」と言ってやりたくなります。普段、薬味として食べているのはつぼみの部分です。花が咲いてしまうとおいしくないと言われますが、私などは花をちぎってから刻んで食べます。それでも十分おいしいですよ。(あまり舌が肥えていないからかもしれませんね。)



あちらこちらでヒヨドリジョウゴの花が咲き始めました。どこかで見たような花ですね。色の違うものもありますが、トマト、ナス、シシトウなどと似ているでしょう。同じナス科ですから、花も似ているのです。この草はつる草で、他の木やフェンスなどに巻き付いて成長します。秋には真っ赤な実が熟し、いかにもおいしそうですが、有毒植物ですので要注意です。それを食べたヒヨドリなどの鳥が酩酊するので、こんな面白い名前が付いています。



旧谷村家住宅の周辺に黄色い花が咲いています。茎をまっすぐ上に立てて、ピンと背筋を伸ばしたように花を咲かせるオトギリソウです。言うまでもなくオトギリソウ科の植物です。漢字で書くと「弟切草」です。物騒な名前ですね。これは薬草で、秘伝のこの草のことを、弟が他人に漏らしたので、兄が弟を切り殺したという伝承から付けられた名前です。兄貴も何もそこまでしなくてもいいのにねえ。(まあ、おそらく後から作った話でしょうけど) この花を眺めながら、そんな話でも思い出してください。

松下